

agassus

| 和歌山タウン情報 | アガサス・ビィ



～アガサスから
アガサス・ビィへ～
40年のアルバム 前編

2025-26.冬号

LURU HALL Concert・Event Guide

本格的なコンサートホールの機能を備えた33席のコンパクトなライブスペース
『LURU HALL』で開催される情報をご紹介します。

2026
1/31 (土)

井澤章典 深呼吸 ～和心浪漫～ 日本ポップスの名曲をテノールとバンドで綴る



日時 2026年1月31日(土) 開場13:30 開演14:00
出演 井澤章典(テノール)、木谷悦也(ピアノ)、
片山博之(ベース)、木村とも(ギター)、中西英樹(ドラム)
料金 5000円(1ソフトドリンク付)
チケット取り置き <https://torioki.confetti-web.com/form/4553>

ジャパニーズポップスの名曲の数々をテノール歌手・井澤章典が歌い上げる。LURUMUSIC SCHOOL校長も務めるなど多彩に活動するクラシックピアニストの木谷悦也をピアノに迎えたバンド編成で送る。

profile 井澤 章典(テノール)

大阪芸術大学芸術学部演奏学科声楽コース卒業。同大学卒業時に演奏学科賞を受賞。声楽部門首席。故・藤原薫、三原剛、岩城拓也の各氏に師事。第8回高槻音楽コンクール第一位。併せて高槻市長賞を受賞。第4回フランス音楽コンクール審査員賞を受賞。演奏家集団Gruppo Acqua in Bocca!!! (GAIB!!!)を主宰し、演奏会を企画するなど、精力的に活動が続けている。2008年から2023年まで神戸市混声合唱団に所属。木下牧子作品やクラシック歌曲を紡ぐ「わかりやすいうた」シリーズは好評で、和歌山でも20回以上コンサートを重ねている。

2026
1/11 (日)



和歌山シャンソン友の会例会 ～訳詞とギターで歌う別府葉子～

シャンソン歌手であり訳詞家でもある別府葉子と和歌山在住のシャンソン歌手・柏夕子、独特な魅力を放つ実力派同士の競演。時に優しく、時に迫力に満ちた歌声で魅せる。

日時 2026年1月11日(日) 開場18:00 開演18:30
出演 別府葉子(歌とギター)、柏夕子(歌)、
木谷悦也(ピアノ)
料金 5000円(1ソフトドリンク付)
チケット取り置き
<https://torioki.confetti-web.com/form/4458>

2026
1/22 (木)



ひまわりのように ～いちごちゃん CD発売記念ライブ～

Officeいちごの里代表・つむぎ人マネージャーのいちごちゃんのCD「ひまわりのように」発売記念ライブ。数下将人ら地元で活動するアーティストも登場し、ステージを熱く盛り上げる。

日時 2026年1月22日(木) 開場19:30 開演20:00
出演 いちごちゃん(小形みちる)、数下将人、
つむぎ人、singer SAYAKA、円香
料金 3000円(CD、1ソフトドリンク付)
チケット取り置き
<https://torioki.confetti-web.com/form/4560>

2026
2/22 (日)



旭堂南和! 講談カフェ シリーズ vol.3

地元・和歌山を中心に活動する講談師・旭堂南和による講談カフェの第3弾。演目は安治川の開削を行った「河村瑞賢」ほか2席を予定。釈台と張り扇を用いたりズミカルな語りで、まるで目の前に起きているかのような臨場感ある描写をライブで楽しんで!

日時 2026年2月22日(日) 開場13:30 開演14:00
出演 旭堂南和(講談師)
演目 「河村瑞賢」ほか2席
料金 3000円(1ソフトドリンク付)

Steinway Night II ～スタインウェイ! グランドピアノを奏でる木曜日の夜～

2026/
1/15 木谷悦也「ヨーロッパ名曲酒嘶・4～ピアノソロの響き」
2/19 宝子「ユーミンの愛の歌～ピアノ弾き語り・6」
開場19:00 開演19:30
料金 1人3000円、ペア券5000円 ※どちらも1ソフトドリンク付。アルコールも可

2026/2/11(水) 横山恭治のフォークカフェ ENCORE・6
フォークシンガー・恭やんこと横山恭治の魅力満載!
偶数月の第2水曜20時～21時に開催。

日時 2026年2月11日(水)
20:00～21:00 フォークライブ、21:00～21:30 ENCORE
出演 恭やんこと横山恭治(Vo. G)、きっちゃん(Chor. Kb)、ひでっさん(G)
料金 2000円(1ソフトドリンク付)

※感染症防止のため、会場内に制限がかかる場合がございます。予めご了承ください。



LURU HALL TEL.073・457・1022
和歌山市狐島298-1 FOX Yテラス1F
電話受付時間:9:00～18:00 木曜定休
<http://luru.jp/hall>
コンサート、イベント情報の詳細はこちらから
<http://luru.jp/hall/archives/event>

”
もっと
“
楽しもう

和歌山を

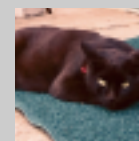
和歌山を知って、

M to W もっと和歌山
オフィシャルサイト MoTTo WAKAYAMA

www.agasus.com



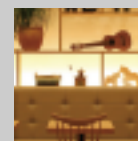
M to W



agasus b



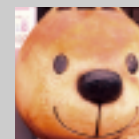
NEWS



EVENT



GOURMET



PERSON



COLUMN & ART



CHAOS HOUSE



6

～アガサスから
アガサス・ビーへ～

40年のアルバム 前編

4

撮れども撮れども

26

Maniac Room ～カオスですが、何か?～

29

写真に染みついた言葉 ～写真、西光、居た、コトバ～

30

アガサス的くすりばこ／ほっこり読む温泉

31

お茶と〇〇と二十四節気／編集[Ⓜ]の気まぐれコラム

(お知らせ) 次回「vol.030」の配信は、2026年3月25日の予定です。

表記について

【料金】基本的に税込表記です。サービス料金が必要な場合は「(税込)」(「サ別」)と表記しています。
【P/駐車場】掲載店・施設が所有する無料駐車場の有無(台数もしくは「あり」)を表記しています。
大型店舗・テナントなど共同で所有する場合は「(共同)」, 何らかのサービスを提供する場合は「(サ)」と表記しています。
※掲載内容についてはあくまでも取材時の情報です。詳細が変更されている場合もありますのでご了承ください。

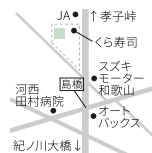
agassus ^{和歌山タウン情報} アガサス・ビー

2025-26年 冬号 vol.029 (25日配信)

令和7年12月25日配信

編集・発行人: 松本雅樹 デザイナー: 吉田梨恵 協力: 白井万喜

発行所
M to W
〒640-8412 和歌山市狐島298-1 FOXYテラス2F
tel.073・488・8757
HP www.agassus.com E-MAIL agassus@agassus.com



～アガサスから アガサス・ビィへ～ 40年のアルバム 前編



2025年は昭和100年にあたるということで、昭和の時代にスポットが当たることも多かった1年でしたよね。昭和と言えば、和歌山のタウン情報誌アガサスが創刊されたのは1986年、そう昭和61年です。ということで、2026年はアガサス創刊40周年！ 40年の間に、フリーペーパーになったり休刊したりといろいろありました。そして今では、別媒体ではありますが、アガサスの“心意気”を受け継いだwebマガジン アガサス・ビィが「もっと和歌山」から発信されています。ということで今回は、和歌山タウン情報アガサスの創刊から40年のアルバム・前編をお楽しみいただきます。当時が懐かしい人も生まれていなかった人も、あの時代の雰囲気をつっぷり味わってみてください！

1986.1987年



1986年8月号 創刊号
創刊号の表紙はこんな感じ。その後、30周年を記念して少し小さいサイズで復刻版が作られています。それからすでに10年が経ったんですね。



1986年8月号 PLAY GUIDE
和歌山にもたくさん映画館があった当時、映画事情が今とはずいぶん違いますね。豪華2本立て上映とか…。そして成人映画のタイトルもしっかり掲載しておりました。



1986年8月号 ギャグ・ステーション
読者からハカキを頂くコーナーがとてたくさんあり、面白いネタを投稿する「ギャグ・ステーション」が大人気だったようです。



1986年8月号 コンテンツ
創刊号のコンテンツはざっとこんな感じです。特集だらけ(笑)&コミュニケーションページが多い印象ですね。



1986年9月号 野鳥のいる風景
「野鳥のいる風景」なんていうエッセイもありました。ちょっとのんびりしていて良い時代だったんでしょうね。ちなみに、左ページのようなタイトルのない「ボエム」もどきのコーナーが突然現れたりもしていたようです(笑)



1986年10月号 ホテル特集
当時、和歌山にあったホテルが結構載っているようです。今や「国宝」のロケで使われ、全国からお客さんがやってくるという「ホテルいとう」ももちろん掲載されています。



1986年10月号 コンテンツがカラーに
3か月目にして、ようやくコンテンツがカラーになりました。カラーで載せられることで、取材写真にも一層気を遣うようになったんでしょうね。月刊誌ということで、1か月間ずっと活用してほしいということで、カレンダーも付いていますね。



1986年12月号 なんでもBANZUKE
新人賞受賞歌手の中で、近頃あまり見かけなくなった人たちの番付ですか？ 年末にやる企画としてはありがたないものをやっていますね(笑) そして著作権無法地帯と化していますが、どこから画像を持ってきたんでしょうね??



1987年1月号 特集ふたりの初物語
東京カレンダーばりにモデルを使った特集。和歌山のタウン情報誌ということはしばし忘れ、余韻に浸って読んでほしいですね!(笑)



1987年2月号特集 紀勢本線 うまいものめぐり 駅弁大会
当時は最新の情報をお届けする特集ページだったはずですが、今見ると“レトロ”のお手本のようなイメージですね(笑)



1987年4月号 真田広之 LIVE TOUR
今や「SHOGUN 将軍」の大ヒットにより世界的に知られる日本人となった真田広之。そんな彼も1987年には、ロック・アーティストとして和歌山県民文化会館にてLIVEを開催していたんですね。



1987年5月号 HUMAN・SPOT 坂本冬美
当時のインタビューで「息の長い、いつまでも名前の残る歌手になりたい」と語っていたように、演歌界の大御所となった坂本冬美。“冬美ちゃん”と表記されていますが、世の中が変わり、今ではハラスメントの可能性も…(笑)



1987年7月号 The祭 なんとって和歌山
いまでもいろいろな人を呼んで行われるイベントはありますが、こちらの「吉本ヤングフェスティバル」の出演者が豪華過ぎませんか？ ダウンタウンを筆頭に、ハイヒールや非常階段etc. 今では絶対無理な人選ですよ。



1987年9月号 突然ショット「ぶんだら編」
当時、季節感のあるイベントなどに出向き、写真を撮って載せるという突然ショット。ひと声かけて撮らせてください、が今よりずっと容易だった時代ならではのコーナーですよ。



1987年10月号 有田民報スペシャル2
和歌山県のタウン誌とはいえ、当時、田辺以南ではほとんど販売場所がなかったため紀南での知名度はイマイチ…。そんな中、知名度も売上部数も良好だったのが“有田”。ということで、そんな有田の皆様に向けたコーナーも好評でした!



1987年12月号 制服カタログディーラー編
車なしでは生活が成り立たないと言われる和歌山らしく、当時から車関連の記事や広告が多かったアガサス。いろいろな制服を集めたコーナーにもしっかりディーラーさんが登場しておりました。

1988.1989年



1988年1月号 わかやまでNo.1 紀三井寺競馬場
現和歌山県立医科大学の場所にあったのが紀三井寺競馬場。記事によれば、昭和50年3月22日、100円に対して21万6210円の配当金が出たということです。残念ながらこの記事が掲載された同年の1988(昭和63)年3月に閉場されています。



1988年3月号 太平かつみ INTERVIEW
今や「かつみ♥さゆり」で大活躍の太平かつみが、漫才コンビ「どんきほーて」の頃にインタビュー。出身は京都府ですが、高校は箕島高校で野球部に所属していたという大きなご縁がありました！



1988年4月号 ハンバーガー-SHOP ハナマル図鑑
1978年オープン、当時すでに10周年を迎えていた「ドムドム海南FC店」(当時はドムドム海南店)ももちろん掲載。店長ご夫妻の写真も載ってます！



1988年7月号 MONTHLY RADAR
毎月のタイムリーな話題を取り上げるMONTHLY RADARのコーナーに、朝ドラ「純ちゃんの応援歌」が登場。和歌山の日高川町(当時の美山村)周辺でロケが行われ、当時、県民の番組への興味は相当高かった。



1988年10月号 パンダがやって来た！
1994年、フリーディングローン制度で永明と蓉浜がやって来る以前の1988年9月、ジャイアントパンダのシンシン、ケイケイが、成都動物園からアドベンチャーワールドに！ 和歌山に初めてパンダがやって来たのはこの時だったんですね。



1988年12月号 ユニクロCM
1988年12月3日、日本で12番目のユニクロとして「ユニクロ和歌山国体道路店」がオープンというCMが掲載。店名がファーストリテイリングに変更されたのが1991年ということですから、今のユニクロとはかなりイメージが違ったようです。



1988年12月号 山口智子 INTERVIEW
7月号のMONTHLY RADARでも掲載されていた朝ドラ「純ちゃんの応援歌」ロケの合間をぬって、山口智子のインタビューが実現。とても初々しい姿が掲載されています。



1989年1月号 CALENDAR PRESENT
映画スターからバイク、車、ヌードまで、かなり豪華なカレンダープレゼントでした。最近では、SNS広告やWEBバナーが一瞬で流れてしまうことから、1年を通してデスクや壁に残り続けるカレンダーが、企業広告としても見直されているようです。



1989年2月号 総力真剣企画 まちの看板 FESTIVAL&CARNIVAL
当時取材で奥まった道を走っていると、たまに、金鳥、アース、ボンカレーなどの看板を見かけたような...。さすがに今見かけることはなくなりましたね。



1989年3月号 突然ショット 成人式編
成人式は、卒業式、海水浴と並び、声をかけて写真を撮らせてもらう「突然ショット」コーナーの3大名物でした。当時は和歌山市民会館で成人式が行われていたんですね。



1989年7月号 夜遊び in 和歌山 びんびんルポ
この年の4月、マハラジャがオープン。2年後にはゴルビーというディスコになってしまいましたが、短期間とはいえ、確かに和歌山にも「マハラジャ」があったんです！



1989年8月号 アガサス編集日記
うちわネタの最たるものですが、大いに読者とコミュニケーションをとっていたタウン誌なので、当時、スタッフネタはなかなか好意的に受け止められていたんです。



1989年8月号 ファッションホテル大研究
なかなかハードルの高い特集を展開していますが、当時はこれがウケて結構販売数が伸びた記憶が...。今みたいにSNSでの発信がなかったので、ファッションホテルの情報が手に入らなかったんですね。



1989年12月号 紀州の民話めぐり
来年の大河ドラマに多少関連があるかもな「秀吉の太田城攻め」。今でも興味深く読める内容ですね。しっかり学びとなるコーナーも掲載してたんですよ(笑)



1989年3月号 バービーボーイズ
コンタ
1989年4月号 TUBE

1989年 多彩なインタビュー
3月号でバービーボーイズのコンタ、4月号でTUBE、5月号で桑名正博&ジョー山中、9月号でジョン・スカイ・ウォーカーズと森脇健児&山田雅人、1989年は、和歌山へやって来るアーティストや有名人に声をかけまくってインタビューをさせて頂いていたようです。頑張っていました！

1989年5月号 桑名正博&ジョー山中
1989年9月号 ジョン・スカイ・ウォーカーズ
1989年9月号 森脇健児&山田雅人

1990.1991年



1990年1月号 TASTY ZONE 中華そば
今ほど和歌山の中華そばやラーメンが全国的に知られていない頃ですが、和歌山県民にとって中華そばは、とても身近なグルメだったことは間違いありません。そして老舗はこの頃からずっと愛され続けているんですね！



1990年2月号 ニューロゴ登場
4月号からロゴが変わるということを知らせるPRページが、表紙をめくるとすぐに登場。カタカナからアルファベットにかなりの変化を遂げていますが、自ら「オシャレ変身」とか言っちゃってるところがちょっと恥ずかしいかも(笑)



1990年5月号 花の万博パビリオン対決リポート
国際花と緑の博覧会(通称花博)は、「自然と人間との共生」をテーマに、1990年4月1日～9月30日まで大阪は鶴見緑地で開催され、83カ国・55国際機関が参加しました。大阪・関西万博の熱が冷めやらぬ今、とても懐かしく感じる人も多いのでは？



1990年5月号 桜樹ルイインタビュー
当時、クラウンからCDデビューする新人歌手ということでインタビューが行われたと記憶しているが、ウィキペディアによれば「AVを出すことを条件としての歌手デビューだった」とのこと。驚きです！(笑)



1990年6月号 幻のツチノコを探せ!!
昭和62年秋、奈良県吉野郡下北山村で生まれたツチノコ伝説。当時は、ツチノコを生け捕りにすれば村から賞金100万円+雑誌「ムー」編集部からも賞金100万円なんていうイベントも。これにアガサスののっかってきたのがこの号の特集。ちなみに2023年下北山村には「つちのこパーク」が誕生。再びツチノコブームがやって来るかも！？



1990年8月号 和歌山発バンド情報
アマチュアバンドの活躍が目覚ましかった当時。和歌山も例に漏れずアマチュアバンドブームの真っただ中。当時人気だった「ゲッツ」のGu服部直樹氏は、和歌山放送「服部直樹の全開！月曜日」などでパーソナリティを務めていらっしゃいますよね。



1990年9月号 イラストMAP ぶらくり丁周辺
手作り感あふれるイラストMAPには、マクドナルドや丸正、ポポロなどの表記が。今も変わらず営業中の店もありますが、かなりの店舗がなくなっているようです。



1991年1月号 新年特別大奉仕プレゼントまつり
新年号なのでカレンダーが多いのはもちろんのことですが、化粧品やケーキ引換券など豪華なプレゼント満載！ 当時は次号で当選者の名前もバッチリ載せていたんですよ。



1991年1月号 岡本喜八監督と緒形拳、来和
龍神で撮影された「大誘拐」の完成披露記者会見に、岡本喜八監督と緒形拳が登場。「(舞台挨拶は行かないけれど)和歌山だけ行くよ」言ったこと理由を聞かれた緒形さんが、「好きだから」と答えた瞬間、会場のテンションが一気に上がりました。



1991年3月号 センバツ出場決定ドキュメント 箕島高校どんとゆけ!!
この時代、箕島高校は常に強いイメージがありましたが、誌面によると“9年ぶり8回目のセンバツ”とのこと。しかし、テレビ、ラジオ、新聞ならわかりますが、タウン誌、しかも月刊という立場で取材に行っているとは！(笑)



1991年4月号 黒澤明インタビュー
何と、世界の巨匠・黒澤明(今はこちらの表記ですかね?)監督のインタビュー記事が！「八月の狂詩曲」完成を記念した、タウン誌記者限定の共同記者会見に我がアガサスも参加。場所はもちろん東京ですが、出席者はなかなかの経験ができたのでは？



1991年4月号 年季明け披露・桂小茶久落語会を開催
校曾丸さんの、桂小茶久としての年季明け落語会開催のお知らせ。まだ和歌山に帰ってきていなかったため、地元会には格別の想いがあったことでしょう。さすがにまだ“和歌山のおばちゃん”の片鱗は全くありませんね(笑)



1991年6月号 スタッフの生の声で綴る 結婚って何やるなあ
ちゃんと専門家の意見があつてからのスタッフの生の声ということなので、遊び心ということにしておきましょう(笑) 今やると、単なる内輪受けでは？と怒られそうな企画満載の時代でした。



1991年7月号 映画について大いに語る!! わかやま市民映画祭にて
今では和歌山の映画祭と言えば「田辺・弁慶映画祭」ですが、当時は「わかやま市民映画祭」というのがありました。ゲストの豪華さには驚かされますね！



1991年8月号 月刊アガサス創刊5周年記念 ガレーゼールLIVE
イベントなどを盛んに行い、読者やクライアントとスタッフのふれあいを心がけていた時代。創刊5周年を記念して開催したガレーゼールの模様を誌面に。今でいうSNSのような人気コーナー「P.S.トーク」も直筆で開催していました。

1992.1993年



1992年1月号 世界リゾート博のMキャラクター愛称決定
1994年7月16日～9月25日開催された「世界リゾート博」のキャラクターの名前が「ワックン」に決定したというニュース。今や和歌山市観光の筆頭、和歌山マリーナシティが当時はまだ建設中だったんですね。



1992年5月号 POEM&イラストSHOW
読者同士、または読者とスタッフのコミュニケーションページとして人気だったMAIL FORUMですが、何と丸々見開きを使ってPOEMとイラストを掲載。SNSが稼働していない時代は大らかでしたね(笑)



1992年7月号 キャンプに出かけてみないか!!
最近のキャンプ・アウトドアブームを予言するかのような早過ぎるキャンプ特集。アウトドアクッキングやキャンプ場紹介etc. これは今でも使えそうかも....



1992年8月号 表紙
表紙のキャラクターが、どことなく「サマータイムレンダ」のヒロイン、小舟潮を連想させるような....髪色や水着姿だからですかね？



1992年9月号 STAFF RELAY ESSAY
当時の社内の様子がわかりますね。場所の説明で“サティと大丸のある築地通りに面して”とありますが、残念ながら両施設共今はなくなっています。しかし物が多い事務所なのは今も変わらずですね(笑)



1992年10月号 和歌山城ウォーキング・デート
デートで和歌山城、しかもウォーキングをお勧めするとはなかなか渋い！そういえば、「デートで〇〇へ行ったら別れる」とか言うのが昔はあったよな〜とか思い出したりして。今でもそういうのってあるんですね？



1992年11月号 世界リゾート博まであと2年！第二次実施計画発表
地元では、2年前くらいから盛んにリゾート博の情報が飛び交っていたようです。今やあって当たり前の“関西国際空港”も、まだ開港していなかったんですね。



1992年12月号 DD完売御礼!CM
別冊の完売をわざわざ1ページCMで報告するとは、相当嬉しかったんですね(笑) まあ某劇団も、イメージアップのために完売を知らせるCMを出すというのを風のうわさで聞いたことはありますが、...



1993年1月号 エイズ知識のダウトを正せ!!
和歌山のタウン誌で扱うにはセンセーショナルな特集ですが、1992年度にはエイズ患者及びHIV感染者数が前年の約2.1倍になっていたそう。それだけ世の中の関心があったということですね。



1993年3月号 大阪アクセスナウ&TJアクセス・ナウ
和歌山のタウン誌だけど、欲張って大阪と東京の情報も掲載していたよう。大阪アクセスナウに「りくろーおじさんの店」が載ってたり、TJアクセス・ナウで“袁川翔&三原じゅん子かVシネマの顔”と表現されていたりと、時代を感じます(笑)



1993年4月号 TVスペシャル 春の新番組情報
あの名作「ひとつ屋根の下」が新番組として紹介されていますね。写真の掲載もなく、取り立てて期待大の作品ではなかったのかな？とか勝手に想像してしまいます(笑)



1993年5月号 食辞典CM
カラー見開きで自社の別冊「わかやま食・辞・典」をどう紹介！渾身の1冊だったんでしょうね。しかし当時の物価を考えれば1700円はなかなかだったような...(笑)



1993年6月号 読売テレビ、社運を賭けた新番組
1993年6月6日から30年以上続く「大阪ほんわかテレビ」。“ほんわかテレビ”というわりには、“社運を賭けた新番組”という物々しいコピー！ とにかくにも“ほんわか”続いていて良かった良かった。



1993年7月号 世界リゾート博の前売入場券好評発売中
第1期前売で買うと、5000円で大人のパスポートが手に入ったなんて、今から考えれば超お得ですね。当時、イメージソングを歌うZOOがやって来た白浜で行われたオープニングコンサートが、とてつもなく大盛況でした。



1993年8月号 7周年が来たぞー アガサスの謎を今解明!
7周年を迎えたこの年の2月号がめでたく一番の販売部数を記録しました。第1特集は「う〜ん、ラーメンが食べたい!!」。和歌山の中華そば・ラーメン人気がじわじわと来ていますね。



1993年10月号 HOTなカップルに贈る ウエディング&ブライダル情報
この頃は「結婚」に関する記事や広告がかなり多かったようですね。今のようにならないうちにマッチングアプリで知り合うこともなかっただろうし、結婚を考えていた人も断然多かったようですね...

1994.1995年



1994年2月号 アンケート大作戦
この頃は頻繁に読者にアンケートを取っていたようですが、恋愛編で「彼氏はいますか?」とか、結婚編で「何才ぐらいで結婚したいですか?」などなど、現在ではハラスメントと言われそうな質問満載なようです(笑)



1994年4月号 結婚つれづれ草 結婚の費用
なかなか詳細な費用が表示されています。昔の方が結婚に費用をかけていたんでしょうね。きっと当時のデータは、都会の裕福で結婚に前向きな人たちのものであると思います(笑)



1994年4月号 月刊映画通信
映画ファンをはじめとして毎回大好評だった連載「月刊映画通信」。この回では、大森一樹監督の「シュート!」が紹介されていますが、6人時代のSMAP全員が出演していた作品ということで、今となってはいろいろ考えさせられますね。



1994年5月号 ギャグステの世界
いわゆる「ハガキ職人」的ファンが多くついていた「ギャグステの世界」。「なに考えてんねん」のコーナーなんて、今でも十分おもしろいと思いますよね!



1994年6月号 誌上動物園
動物たちはとてもかわいのですが、何となく誌面を見た人から「それで?」という声が聞こえてきそうな特集(笑) 最後のページなんて、イミテーションの動物たちが登場する始末。そもそも、恐竜やツツノコは動物でもないですし...。



1994年8月号 『世界リゾート博』のイベントはスゴ〜イ!
ポルトヨーロッパなど、当時の面影が残る施設も...。オーシャンプロムナードの端っこにあったフックン灯台、長いこと行ってないけど今も健在らしいので久しぶりにお目にかかりたいです!



1994年11月号 ラジ坊絵本
和歌山放送さんとは長い付き合い。手を変え品を変え、いろいろな関連コーナーが掲載されていましたが、この号はまるでラフスケッチのような手書きのページ。ゆる〜く特徴をとらえた似顔絵が素敵!



1995年1月号 これが吉宗! これぞ吉宗!
大河ドラマ放送を記念した吉宗特集。吉宗が紀州藩にいた時代を描いた場面では、県内各所でロケが行われています。和歌山城では、豪華な出演者勢揃いの共同撮影会も!



1995年3月号 タウン情報全国ネット[特別寄稿]
全国のタウン情報誌が一丸となって掲載にこぎつけた、あやしい探検隊メンバー6人によるリレーエッセイなんというのもありました。まあ地方のタウン誌1社では、椎名誠らの原稿料をねん出するなんて無理ですよね〜(笑)。



1995年6月号 「ビリ辛」への挑戦
ビリ辛特集の中のワンコーナー「「ビリ辛」スナック菓子チャンプ」。タイトル通り、「寄ってたかって食べ比べ」してる様子が目に浮かびます(笑) 今なら絶対YouTubeでやる企画ですよね。



1995年7月号 コカ・コーラライトCM
爽やかさを前面に押し出した豊川悦司がカッコイイ、コカ・コーラライトのCM。当然ながら、最近の「地面師たち」のイメージは全くありません!



1995年8月号 夏祭り&花火イベント・カレンダー
手書きのイラスト入りカレンダーを横向きに掲載するとか、なかなか斬新な誌面です(笑) 手作り感満載ではありますが、意外と見やすくわかりやすいような気がします。



1995年8月号 感情をあわなァ!新連載
待ってました! 桂枝曾丸の小茶久時代の連載エッセイの初回です。自己紹介で「年齢は26才」と書いているように、文面から若々しさがあふれ出ています(笑)



1995年9月号 読書の快楽をあなたに約束する!?
本・ホン・ほん 読書の秋ということで特集されたコーナーなんですが、何気に見ると「怪談」/ラフカディオ・ハーン(集英社文庫)というのが目に飛び込んで来ました。タイムリーかも! ということで採用です(笑)



1995年10月号 月刊アガサス創刊9周年記念「マイ・フレンド・フォーエバー」特別試写会
突如ページの端っこに現れたこのコーナーは、創刊9周年記念の特別試写会が満員御礼だったことに感謝する記事。確かに写真で見る限り、今の「鬼滅の刃」ばりの行列ができていますね。



1995年10月号 映画生誕100周年記念 映画大好き!
当時から、和歌山には映画関係者が数々訪れているんですね。そもそも映画生誕100周年記念特集を掲載するくらいですから、アガサスは映画に関して相当力を入れていたタウン誌だったと言えそうですね。

1996.1997年



1996年1月号 クイズこんなこと、知ってる?わかやま
アドベンチャーワールドのパンダの名前と同列で、「WINDS平阪氏の実家の商売は?」というのがクイズになっています。そんな個人情報に当たり前のように問題にするなんて、平阪さんスママセン...。



1996年3月号 女子高生制服ご意見版
そもそも、なぜ“ご意見番”ではなかったのだろう? 疑問は残るがイラストや写真などを使いなかなか秀逸な特集になっています。ちなみに、取材の実況中継的な「ゲット・ストーリー」(ページ下枠)が時代を感じさせますね。今なら載せるかどうか悩む内容ですよな(笑)



1996年7月号 PRESENT
㊸のH Jungle with tやTRFの宣伝用ポスターとか豪華なプレゼントやなあ〜と見てると、次の㊸はアガサス提供の“ヘビ”。何でもありか!と思わず突っ込んでしまいました(笑)



1996年8月号 創刊十周年祭オープン!
さすがは創刊10周年。太平かつみや坂本冬美にあらためて“おめでとうコメント”をいただけるなんて...。地元愛の賜物ですね!



1996年10月号 差し入れありがと!
当時、差し入れを持って来ると、希望すればアガサスに写真が載るというシステムを採用。しかし、月刊誌で10組ってことは、3日に一回は差し入れをもらっていたってこと? 何てありがたい!!(笑)



1997年1月号 BOOK
当時「進め!電波少年」で大人気になっていたといえ、「猿岩石日記」が村上春樹や糸井重里と並んで紹介されているとは!(笑) まあ有吉弘行は、今や紅白歌合戦の司会を務めるほどの大物になりましたが...



1997年2月号 タウン情報の日記念 自宅で食べるニッポン
当時全国31のタウン誌が加盟していたタウン情報全国ネット。1年に1回、タウン情報の日というのがありまして、このように加盟誌全てが参加する特産品プレゼントなどを開催しておりました。アガサスはこの年、高級梅干を出していたようです。



1997年5月号 遊びに行こう!県内EVENT・SPOT
最初は若きメッセンジャーの写真に目を奪われるんですが、よーく見ると「小柳ルミ子 with 大澄賢也コンサート」が県文大ホールで開催されるという情報が!「華麗なるダンスは必見」...そんなコンサートをやったとは。



1997年6月号 某スナックCM
この頃はスナックやパブなどの広告がたくさん掲載されていました。しかし広告を出そうというわりには、スタッフは誰一人顔を出していないという(笑) 何らかの理由で出せなかったのか、見たかったら店に来てね、という作戦だったのか...??



1997年6月号 カクテル講座ネイキッド
時代と共に変わっていくものは多いと思いますが、スタンダード・カクテルの作り方なんてそうそう変わらないのでは? ということで、今読んで役立つ特集なのではないでしょうか。たまには真面目にやってみました(笑)



1997年7・8月号 オセロINTERVIEW前後編
インタビューが決まった時、「オセロって誰?」と聞くと、お笑いに詳しいスタッフが教えてくれたくらい知名度だったと記憶していますが、その後の活躍が目覚ましく、インタビューできてとてもラッキーでした。今はコンビとしては微妙に触れにくいですけど(笑)



1997年8月号 夏の高校野球特集
さすがは野球王国・和歌山!なラインナップでおくる特集。担当者の野球愛を感じます。紀三井寺球場に思い出がある選手がこんなに活躍してなんてスゴイですよ。



1997年11月号 music 因幡晃&根本要インタビュー
何のタイミングでこの2人が同号に掲載されることになったのかはわかりませんが、なかなか渋いコーナーになっていますよね。よく読めば、質問の少ないインタビュー記事ではありますが(笑)

1998.1999年



1998年2月号 CINEMA FILE 新鋭監督サブの魅力を探る!
初監督映画「弾丸ランナー」で注目されたSABU(当時はカタカナ表記)監督。和歌山県和歌山市出身ということで、地元でお話を聞く機会に恵まれました。彼を応援する「サブ・プロジェクト」を立ち上げた井上さん経営の雑貨店「モダンタイム」にも、当時は取材などでお世話になっていました。



1998年2月号 monthly radar 日本一のラーメンに和歌山のアノ店が選ばれた
この年のTVチャンピオンで井出商店の中華そばが「日本一うまい」と認定されたことから、和歌山ラーメン・中華そばのブランド化が始まったと言えそう。ちょうどそんなタイミングでアガサスもラーメン特集を組んでいましたよ!←自慢(笑)



1998年5〜7月号 とびだせ!郡民
「すももももも桃山町」「応答せよ!大塔村」など、「すべてがすべて」に「いるキャッチコピー」が楽しみだったこのコーナー。しかし当時、串本町の大島には巡航船がフェリーでしか行けなかったということがわかるなど、実はとっても意味のあるコーナーだったんですよ。



1998年7月号 CINEMA FILE 第15回わかやま市民映画祭
毎回豪華なゲストを招いて開催されていたわかやま市民映画祭ですが、この時は役所広司が来和。しかし何といても、「握手攻めにも気軽に応じてあげていました(私もその中の1人だった)」云々が気になりますね。仕事さへ〜!(笑)



1998年8月号 アガサス12周年記念? ポツネタ・ダービー
基本、掲載される特集は月1、2本。毎回出るその何倍ものポツネタ救済という画期的なコーナーではありますが、梓番5の「ぜい肉パスターズ」とか、そりやポツになりますわ的なものも(笑)



1998年10月号 We are 'the RPs'
NHKわかやまのPRコーナーで、当時入局して2年目の登坂淳一アナウンサーを発見! 今ではすっかり「白髪のパパ」のイメージがありますが、当時髪は毛は真っ黒。まあモノクロページなのでわかりにくかも知れませんが、...(笑)



1998年11月号 monthly radar 井出躍進&小茶久改め2代目枝曾丸に
同じ誌面の左右に、桂小茶久の襲名と、井出商店の新横浜ラーメン博物館出店の記事が! 2つのニュースは同時期だったんですね。アガサスとしては感慨深い限りです。



1999年2月号 踊る! 韓国料理 KORIAN FOODSを買いに行こう!
今では日常に浸透している韓国料理ですが、「冬のソナタ」が韓国で放送されたのが2002年、日本で放送されたのが2003〜2004年にかけてと聞くと、かなりブーム先取りだったんですね。



1999年5月号 自社広告
「栄枯盛衰見てきました」ってなんちゅうコピーやねん!と、思わずバリバリの関西弁で突っ込みたくなるCM。これで広告を頂いていたと考えると、アガサスのクライアントさんはこんなノリにも寛大だったんですね。ありがたいことです。



1999年10月号 即席! 和歌山ラーメンの検証
TVチャンピオンからブームが途絶えず続いていたんですね。こんなに多くの即席ラーメン、インスタントラーメンが出ていたとは。みなさん、「当時食べたよ」というものはありますか?



1999年11月号 music topicsコブクロ
今や大阪・関西万博の公式テーマソングを歌うほどになったコブクロですが、この頃はまだ人気の出始めたストリートミュージシャン、みたいな紹介がされています。2人とも若いですね。黒田氏にはまだサンングラスのイメージもなさそうですし(笑)



1999年11月号 大学祭スケジュール'99
当時はイベント関連のスケジュールをいろいろ載せていて、大学祭のスケジュールも毎年掲載されていたようです。この年の和歌大祭にはaikoが来ていますが、「花火」がランキング上位に入るようになったとのことなので、盛り上がったんでしょうね。



1999年11・12月号 星からのメッセージ
11月号の星占いのページを見ていて何か違和感があるなあと感じていたんですが、12月号を見てわかりました。何と11月号、12星座のアイコンが全て牡羊座じゃないですか!? 一度印刷してしまうと訂正の効かない紙媒体。今は笑えますけど当時はかなりヤバかったのでは?(笑)



1999年12月号 年末年始にオススメ! アガサス選りすぐりの飲食店27
まず、忘新年会ガイド特集のタイトルが「宴(ウタゲ)ヒカル」。そしてコーナー内の記事「猪木カンジの90'sへの伝言」のイラスト...。相変わらずぶざけております(笑)

まだまだ、こんなものもありました！



1986年8月号 センターページ

創刊号といえばこの見開きページ。浴衣の男女が縁側で涼んでいる写真とボエムで贅沢に2ページ、しかもセンターに！ このシチュエーションがイケてるかどうかはさておき、当時としてはチャレンジングな造りに拍手！



1987年5月号 紀州和歌風景

創刊時からあらゆる趣味嗜好の読者層をカバーしているように思えるアガサスだけど、これは渋い、渋すぎるっ。注目したいのは写真。現代では見られない景色が広がっていて興味深い。



1987年10月号 裏表紙広告

(上) 現在はASEAN諸国で生産・販売されているパジェロですが、当時は本格SUVの代名詞、四駆の花形でした。こんなにカクばってて、男らしいフォルムだったんだよね〜。(下) 車検センターの広告。真ん中3行目「先進国しています」という昔の流行っばい表現がエモさを感じる。



1988年12月号 GOOD-BYE南海ホークス

これたぶんスタッフが現地に行っていたんですね。誌面にはやしきたかじん氏や水島新司氏の横顔が載っているし(たぶん無断)。っていうか、難波のと真ん中にプロ野球のホームスタジアム球場があったことを知る人は今いかほどでしょうか。



1989年4月号 THE弁当マッチ

一部ファンにしかウケないようなディープな特集を展開するのがアガサスのアイデンティティだけど、のり弁vs幕の内弁当という絶妙なラインを狙った特集。それにしても当時ののり弁が280円って...



1992年3月号 ガンバレ南部高校&日高高校

昔から野球関連の記事が多かったアガサス。ここではセンバツ出場をアベック(古い)で決めた南部高校と日高高校をピックアップ。予選大会の振り返りにはじまり、関係者への取材や甲子園での展望など、まるでスポーツ新聞のような読みこたえ。



1989年4月号 和歌山辞典AtoZ

この手の特集、好きなんですよね〜(自分ではやらなかったけど)。Aがいきなりアガサスとはおこがましい感もあるけど。Kは紀州鉄道が貴志川線にして、Nは野上鉄道だけど、南海加太線でもいいのかなと。鉄分多めになっちゃうか。



1990年11月号 新南海橋ができた日

平成2年9月19日、紀の川に架かる南海橋の橋脚沈下を受けて、202×年に復興する日を思い描いたイマジナリー記事。出来事はシビアだったけど、内容はかなり秀作でくっ読めます。ちなみに202×年には県出身の俳優・小林○侍さんが県知事になっていると予測しています。



1991年2月号 列島縦断ウルトラ・トラベル

すみません、昔よくやっていたチャートを出したくて選んでしまいました。内容はなんのことはない全国各地の旅プラン紹介なんだけど(先輩方すみません)、やはり元ネタのアメリカ横断ウルトラクイズを思い出してしまいました。



1993年7月号 レンタるんるん 買うより借りちゃえ

旅行やキャンプで使うアイテムを買って揃えるよりレンタルショップで借りの方が手軽でお得だよ、という特集。「バブルも弾けたことだし」とタイトル横に書かれているのが、なんだか切ない。



1989年4月号 MONTHLY RADAR

真ん中に阪神タイガース監督の故・吉田義男さんの記事がしれっと出てる！ 監督勇退後の吉田さんがフィットネスジムで汗を流しているという内容なんだけど、これってプライベートちゃうん?? よくよく読んでみると種明かしされているのだけど、もうちょっと扱い大きくしたって(泣)



1992年6月号 深夜番組&シロウト参加のダハハTV

東京発では見られない関西ローカル番組の特集(なぜ?)。しかも全テレビ局網羅しているというその熱量たるや恐るべし。テレビ和歌山の「WTV新カラオケ道場」が月曜夜8時〜のゴールデンタイムだったとは。そして青少年の視聴率100%(推定)の「週刊・おとなの絵本」も...



1992年1月号 和歌山のオキテ

昔賑わっていた懐かしい施設連発のページ。当時ダイエー小雑貨店の隣にあったアイスアリーナや、和歌山市三葛で話題を独占した(した?)ゴルフ、その前はマハラジャだったっけ。和歌山城にカップルで行くと...とかそんな与太話もありましたなあ。



1994年8月号 座席表と時刻表

アガサスといえばこのページ！ 特に時刻表はインターネットが広まるまではとても便利だったんですね〜。ダイヤ改正の度に、分厚い時刻表の本を参考に嬉々としてカリカリ修正していた当時の編集長の姿は今でも覚えています。



1994年1月号 川向こうの逆襲
当時バームシティがオープンして間もないくらいのタイミングでの和歌山市北部エリア特集。和歌山市中心部を基点考えると、紀の川以北を「川向こう」、以南を「川こち」呼称する、今だったらクレームが来そうタイトル。



1995年11月号 「とんち」の世界
オモシロ看板や標語、オブジェなどをちりばめた、宝島社のVOWみたいな特集。ポンカレーや、大村崑のオロナミンCの看板は、昔はよく見かけました。誌面内の切れ味鋭いツッコミがこの特集の真骨頂。ツッコむ内容を考えるの、結構大変なんだよな〜。



1996年10月号 ジグザグ放浪記
前のページで椎名誠さんの直筆メッセージを載せていたけど、こちらは本人によるエッセイ。彼の作品をよく読んでいた身としては、入社時に「こんな貴重な連載が載っている雑誌に関われるのか!」と心躍っていたのですが、..



1997年11月号 1997大学祭スケジュール
県立医大のゲストが故・中島らも氏という人選が、いろいろカオスで面白い。小さく書かれているけど、近大生物理工学部で行われた二丁目出張ライブのゲストに中川家とサバンナの名前が! サバンナ、結構ベテランなのね。



1997年11月号 FROM 港本町 FOR 屋形町
湊本町は言わずもがな和歌山放送の所在地で、屋形町は当時のアガサ編集部があった場所。ちなみに住所は屋形町だけど、三木町モータープール(当時)の隣にあったから、実質三木町。アクセスを説明する時はちょっとややこしかった(内容に触れるよ)。



1998年1月号 年末年始テレビワイド
メールで画像のやり取りができる今と違って、昔は紙焼きの写真を調達していた時代。郵送で間に合わないテレビ局には直接もらいに行っていました。しかも締め切り2日前とか綱渡り状態だったから、大阪で楽しんで帰る、なんて余裕はなかったな〜。



1998年5月号 P.S.TALK
大切な誰かへの思いを40文字に込めて伝えるなんて素敵やん、とか今だから温かい気持ちでいるけど、締め切り前までハガキをため込むと膨大な打ち込み作業が待っていて悲惨。プリクラもたくさん送ってくれて、どれを採用するか毎月迷っていました。



1998年6月号 おフランスざます
サッカーフランスワールドカップ開催に合わせた和歌山で楽しむフランス特集。クイズやフランス料理のレシピ紹介、渡航経験のある人へのインタビューなどの読み物の中で、代表メンバーをフランスワインに例えた企画は、選者は大変だっただろうけど、とても楽しめました。



1997年12月号 風邪がなんだ!
当時はカラーのメイン特集とモノクロのサブ特集という2本立てだったアガサだけど、「風邪の特集って売れるの?」と新人ながら疑問でした(笑) でも近所の薬局に風邪薬の撮影に行ったり、先輩方が迫真の演技をしたりで、とても面白く仕事したのを見えています。



1999年3月号 自社広告
和歌山の中華そばを語る上で欠かせない伝説の別冊『和歌山の中華そばとラーメン。』の全面広告。ラーメンブームに乗かって、話題になった本でした。ちなみに左隣の広告は裏表紙の裏面。JASRACって広告打つのね。



1998年9月号 和歌山ミュージックシーン
極私的ですが、初めて企画が通った(しぶしぶだったけど)サブ特集。先輩と2人で和歌山の音楽について、ライブハウスやジャズバー、スタジオ、ミュージシャンなどいろいろ取材しました。あの時はアツかったな〜!



1999年10月号 ゼロからはじめるインターネット
「情報がスパークする時代!」とタイトル上にあるように、パソコンが普及し、誰もが「インターネットとは何ぞや?」と興味を持ち始めた頃、インターネットのイロハを指南する特集...なんだけど、今読んでも専門用語がバンバン飛び交って難解(苦笑)



1999年9月号 きみの着信メロディにメロメロ
昔の携帯電話は単音しか鳴らすことができず、地道にド、シ、ファなどと打ち込んで1つの着メロにしていました。特集では、着メロ打ち込み用に和歌山ゆかりのCMソングを音符化して紹介しました。誌面にある「携帯電がな話」にも注目。タウン誌らしい好企画です。



1999年8月号 LiveなDrive
ネーミングを含めて自分が立ち上げたドライブページなんだけど、その直後に営業部に異動となり、一度もドライブしないまま手を離れてしまった因縁のレギュラーコーナー。しかも初回から「R42完全制覇の旅」ってうらやましかったぞ!



1999年10月号 秋の新番組予想 ヒット祈願ダービー
歴代、競馬好きが在籍する編集部ゆえ、競馬新聞のパロディ的な誌面を作ることがたまにある。それをお伝えしたくて選びました。嫌いじゃないので(笑)

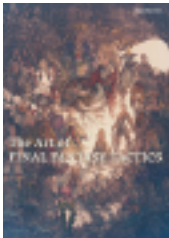
今回のプレゼント

①The Art of FINAL FANTASY TACTICS

税込2750円／A4判・128P

原点となる「ファイナルファンタジータクティクス」(1997年)制作時のイラストをはじめ、「獅子戦争」(2007年)と「イヴァリースクロニクルズ」(2025年)までに描かれたイメージイラストなどを収録した1冊。初公開となるオリジナル版のキャラクターとジョブイラスト、マップのラフ画やコラボレーションコンテンツで使われたイメージイラストなども多数掲載！

GAMEBOOKS ONLINE
https://magazine.jp.square-enix.com/gamebooks/



© SQUARE ENIX

③友達の妹が俺にだけウザい ①～③

各巻税込770円

ごくごく普通の男子高校生・大星明照の毎日は、親友の妹・小日向彩羽にウザ絡みされる日々！彩羽は、合鍵を胸の谷間にしまったり後から抱きついたりと、ありとあらゆるウザ絡みを仕掛けてくる…。

※10月4日(土)よりテレビ朝日系全国24局ネット
“NUMAnimation”枠、BS11、AT-Xで放送中のTVアニメ「友達の妹が俺にだけウザい」コミカライズコミックス

TVアニメ公式サイト
https://www.imouza-animation.com/
コミックス公式サイト
https://www.manga-up.com/titles/543



© Hira Hiraoka/SQUARE ENIX

⑤ドラゴンクエストII 公式ガイドブック【HD-2D版】

税込2530円／B5判・496P

「ドラゴンクエストII」と「ドラゴンクエストIII」ふたつの冒険の手助けとなるアドバイスをはじめ、探索に便利な世界各地のマップ、激闘を勝ち抜くための強敵攻略の他、モンスター、装備品、アイテム、呪文&特技といった各種データリストも収録し、平和を取りもどす旅を最後までしっかりサポート。「ドラゴンクエスト」シリーズ生みの親・堀井雄二氏と早坂将昭プロデューサーとのスペシャルインタビューも必見！

※特典デジタルコードを入力すると「お得な衣装セット」が手に入る封入特典付(有効期限:2027年11月27日23:59まで)

GAMEBOOKS ONLINE
https://magazine.jp.square-enix.com/gamebooks/



© ARMOR PROJECT/BIRO STUDIO/
SPIKE CHUNSOFT/SQUARE ENIX

⑦LOGOS - The World of FINAL FANTASY XVI -

税込4400円／A4判上製・256P

「ファイナルファンタジーXVI」唯一の公式世界設定本がついに登場！全五章・256ページでヴァリスゼアの歴史、人物、地理、文化、生物に至るまで、本書でしか読めない内容が満載。執筆は本作開発チームが主に手掛け、さらに英語版の声優を務めたBen Starr氏(クライヴ役)、Stewart Clarke氏(ディオン役)、Christopher York氏(ガブ役)らも特別参加。「ファイナルファンタジーXVI」を愛する全てのファン必携の1冊。

執筆:ファイナルファンタジーXVI開発チーム Michael・Christopher Koji Fox、Ben Starr、Stewart Clarke、Christopher York他
監修:ファイナルファンタジーXVIクリエイティブディレクター&原作・脚本 前廣和豊

GAMEBOOKS ONLINE
https://magazine.jp.square-enix.com/gamebooks/



© SQUARE ENIX
LOGO & IMAGE ILLUSTRATION:
© YOSHITAKA AMANO

②不器用な先輩。①～③

各巻税込770円

Twitterで累計“300万いいね!突破”の大反響オフィスラブコメが待望の単行本化!「綺麗だけど、怖いしキツイ…」と会社内の評価がいろいろと残念な27歳OL・鉄輪。新入社員亀川の教育係を任せられ、初めて後輩を指導する事に…!?

※10月2日(木)よりTOKYO MX、BS日テレで放送中のTVアニメ「不器用な先輩。」の原作コミックス
TVアニメ公式サイト
https://bukiyouna-senpai.asmik-ace.co.jp/
コミックス公式サイト
https://magazine.jp.square-enix.com/yg/introduction/bukiyou/



© Makoto Kudo/SQUARE ENIX

④父は英雄、母は精霊、娘の私は転生者。①～③

各巻税込770円

研究職に明け暮れていたら精霊に転生しました!?とーさまは魔物の騒乱王国を救った元・英雄、カーさまは万物を司る精霊の女王。そんな境遇に生まれた精霊の少女・エレンには元素を操ることができる最強スキルが備わっていて…。「小説家になろう」発の大人気小説を、圧倒的画力でハイクオリティにコミカライズ!!

※10月5日(日)よりTOKYO MX、BS日テレで放送中のTVアニメ「父は英雄、母は精霊、娘の私は転生者。」コミカライズコミックス

TVアニメ公式サイト https://hahanoha-anime.com/
コミックス公式サイト
https://magazine.jp.square-enix.com/biggangan/
introduction/chichihaeiyu/



© Matsuura,keepout 2018 Licensed by
KADOKAWA CORPORATION
© Yutaka Ohhori/SQUARE ENIX

⑥オクトパストラベラー0 公式コンプリートガイド&アート設定資料集

税込2860円／B5判・272P

「オクトパストラベラー0」の旅をナビゲートするコンプリートガイドブック。キャラメイクやセレクトアビリティ、タウンビルドなどの新要素の詳細はもちろん、プレイク&ブーストを駆使するバトル解説や、フィールドコマンドで力を貸してくれる町の人々のデータなども掲載。また、HD-2Dのさまざまなグラフィックや美麗なアート素材をまとめたアート設定資料パートも収録。この1冊を手には、あなただけの物語を作り上げよう！

GAMEBOOKS ONLINE
https://magazine.jp.square-enix.com/gamebooks/



©SQUARE ENIX

③ファイナルファンタジー14の絵本 ボクとモロコシさま

税込1430円／B5変型判・24P

あるひみつけた、モロコシみたいなへんなやつ。オトナたちには、みえないみたい。さびしそうにしてたソイツをついてみたら、さあたいいん。モロコシぬけてとんでった!——これはボクだけしってる、ナイショのはなし。「ファイナルファンタジー14」の公式絵本第2弾!「ボク」とモロコシさまの、不思議な出会いと冒険のお話。今作も開発スタッフによる完全書き下ろし。

文:織田万里(シニアストーリーデザイナー)
絵:生島直樹、吉浦利奈

GAMEBOOKS ONLINE
https://magazine.jp.square-enix.com/gamebooks/



©SQUARE ENIX

提供: [株式会社スクウェア・エニックス サポートセンター] https://sqex.to/PUB

2026年の幕開けを祝福! 和歌山マリーナシティイベント情報!

光のフェスティバル「フェスタ・ルーチェ」が開催中の『和歌山マリーナシティ』で、年末恒例の「ニューイヤーズ カウントダウン2026」を開催! 地元出身ミュージシャンたちによるライブと、炎・照明・花火が融合した光のショーで盛り上がり、年明け前からは会場が一体となり新年に向けたカウントダウンに突入。年が明けると同時に2026年の幕開けを祝福する花火が打ち上がります。感動的な新年をみんなで祝おう!

和歌山マリーナシティ「黒潮市場」では、日本全国から旬の魚介類を集め、正月商材をお買い得価格で販売する「大魚市」を開催! さばきたての生マグロをはじめ、カニ・ブリ・タイなどお正月商材が勢ぞろい。本マグロなど毎日マグロの解体ショーを行い、さばきたての生マグロを提供する。その他、お買い得の魚介類の詰め合わせ「味の玉手箱」や、炭火で焼く「祝い焼鯛」など、おすすめ商品が盛りだくさん!



ニューイヤーズ カウントダウン 2026

日時 2025年12月31日(大晦日) 午後8時15分頃～深夜0時3分頃(予定)

場所 和歌山マリーナシティ 西側特設ステージ

ファイヤーマジック ～炎と光の競演～

場所 和歌山マリーナシティ 西側特設ステージ

時間 午後9時 ②午後10時 ③午後11時の3回開催(約6分間)

黒潮市場「大魚市」

日時 2025年12月28日(日)～2026年1月4日(日) 午前9時～午後5時

※12/31は深夜1時まで(売り出しは午後3時頃終了) ※1/1は正午～午後4時、1/2以降は午前10時から

場所 和歌山マリーナシティ「黒潮市場」

料金 入場無料

黒潮市場 TEL.073・448・0008 http://www.kuroshioichiba.co.jp

本当のクリスマスに出逢える場所「フェスタ・ルーチェ」

日時 開催中～2026年2月23日(月・祝) ※1月1日(祝)は休み、1月5日(月)以降は土・日・祝のみ開催

時間 午後5時～午後9時(最終入場午後8時30分)

※12月の土曜と、12月25日(木)は午後5時～午後10時(最終入場午後9時30分)

場所 和歌山マリーナシティ ポルトヨーロッパ

入場料 【当日券】大人(高校生以上)1800円、小人(3歳～中学生以下)1000円

【前売券】大人(高校生以上)1600円、小人(3歳～中学生以下)800円

・アトラクションナイトパス

【当日券】大人小人共通1800円 【前売券】大人小人共通1600円

・シーズンパスポート

大人4500円、学生(高校生以上)3500円、小人(3歳～中学生以下)2200円 ※料金は全て税込

フェスタ・ルーチェ実行委員会 事務局 TEL.073・484・3616 https://festaluce.jp/wakayama/

※全ての催事は予告なく変更する場合や、荒天や機材トラブル、または諸事情によりやむを得ず中止する場合がございます。あらかじめホームページなどでご確認ください



※写真はイメージです。

和歌山マリーナシティインフォメーション

tel.0570・064・358 https://www.marinacity.com

和歌山県は音の出る信号機設置率 全国1位

目の不自由な方へ「音の出る信号機」を

和歌山放送ラジオチャリティミュージックソン

店舗店頭やタクシーなどで赤色や黄色の募金箱を見かけたら、
あなたのあたたかい善意をお寄せください。

キャンペーン期間 2025年11月1日～2026年1月31日まで お問い合わせ tel.073-428-1431

和歌山放送

応募方法 欲しい賞品番号を記入の上、名前、住所、電話番号、年齢、性別、職業を明記しハガキまたはメールにてご応募ください。締切は2026年1月15日(木)必着です。

ハガキは
こちら!

〒640-8412
和歌山市狐島298-1 FOXテラス2F
M to W in agasus b

メールは
こちら!

agasus@agasus.com

【個人情報取り扱いについて】
お預かりした個人情報は、表記の目的の他、個人を識別できない形で事業活動に使用させていただく場合があります。なお本誌掲載のPR情報ははじめ、広告主が主体となり収集する個人情報の取扱いにつきましては、各々の広告主にお問い合わせください。

写真に染みついた言葉

～写真、西光、見た、コトバ～

連載67回目



毎年秋は体調を崩しがちだが今年はギクリ腰をやってしまいしばらく立てなくなり今もまだ調子は戻っていないので、あまり何か特別な事もないので2025秋から最近までの備忘録を書き記しながら何かの話題に展開できたらと思い書き出します

- ・コンビニで外国人の店員さんを怒鳴り散らして死ぬほどギクしてる爺さんに死ぬほどギクしてる
- ・仕事で出会った早大生が写真の質問を沢山してきたのでいい気になって答えていたの
- ・その子が「知恵熱が出た」と言い出して早大生に知恵熱を出させたという気になる
- ・M-1のマタルトの5104万のツッコミで死ぬほど笑った
- ・ラーメン屋で不意に流れてきたジュンディマリ『BLUE TEARS』に激エモな気持ちになる
- ・ラーメン食べながら『BLUE TEARS』を聞いて周田モになるおっさんは気持ち悪すぎるので周囲にバレないように必死になり鼻を必要以上にすったり顔を上に向けていたりしてラーメン屋の大将に
- ・「お、風邪でもひいてんのか？ ニンニク入れて食えよ」と加藤茶みたいに陽気な感じで言われて少し萎える
- ・数十年前12月に連絡してた人に歯を食いしばって連絡をしなかった
- ・直前に『BLUE TEARS』聞いてなかったら我慢できなかった
- ・『BLUE TEARS』は凄く感動した
- ・『BLUE TEARS』を聴くたびにこの曲一生終わるなと思う瞬間すらあった

備忘録とか言いながら最後はたまた『BLUE TEARS』の賞賛になってしまった訳で、全く何かの話題に展開できなかった訳で、実は最初から分かってた訳で、実は寝込んでいた時に「フマコ」の国からをめぐって見ていた訳で、こんな感じで2025年は終わってしまいます

沢山の嘘は俺をいつか壊して伝えられないこの雪 the newly fallen snow

写真家 西光祐輔 にみつゆうすけ

1976年新宮市生まれ。東京在住。23歳から写真を始め、個展、グループ展、イベントなどに参加する傍ら雑誌や広告、CDジャケット、ミュージックビデオの撮影、作品集刊行など多岐に渡る活動を展開。梅佳代、川島小鳥らも参加する8人組のアーティストユニット、ハジメメンのメンバーでもある。



スチャダラパーのANIさんとナオヒロックさんのアパレルブランドSAMUELで、漫画家でエッセイストのしまおまほさんととおぼけビ〜バ〜のマネージャーも務める長州ちからさんと、イラストレーターの日向山葵さんを撮影しました。インスタでSAMUELと検索してご覧ください。本年もありありがとうございました！ 良いお年をお過ごしくださいませ！

㊟デビュー月 1997年9月号 スポーツするぞ!
 いつからかわからないけど、入社すると誌面デビューするのがお約束でした。私の場合は秋のスポーツ特集に組み込まれ、フィットネスジム体験とボクシングジム入門。しかもボクシングでは縄跳び、ミット打ちからスパーリングまで、2時間くらい結構ガチなやつに挑戦。校了後、ほんのちょっとだけ「続けられるのかな」と頭をよぎりました(笑)

～アガサスからアガサス・ビーへ～

40年のアルバム ㊟編

1994年10月号 決定!!「ベストジーニスト'94」発表

1995年6月号 情報のボトルベストジーニスト'95 一般投票大募集

生でキムタクを見ることができると聞き、自費で東京まで取材に。'94年、一般選出部門で選ばれた木村拓哉は、それから5年連続ベストジーニストに選出され殿堂入りを果たしています。

ちなみに、翌年の「ベストジーニスト'95一般投票大募集」の記事でも、'94年に撮影した写真をサラッと掲載(笑) 和歌山のタウン情報誌なので、和歌山にあんまり関係のない情報の扱いは小ざ目でした。当時は今では考えられない取材もあったんですよね。

り
 2002年9月号表紙、2015年7月号、2018年4-5月号など、出てました、お約束なので...



漢方Q&A お悩み相談室

MEDICINE CASE

アガサスb的くすりばこ

痔



Q 痔の痛みに悩んでいます。出産をきっかけにイボ痔と脱肛になり、痛みが起こるたびに市販の塗り薬をつけて何とか抑えていました。しかし最近では特に体が冷えた時や疲労感が強い時など激しい痛みに襲われ、また長時間同じ姿勢で座っていることが難しくなり、仕事もほとんど集中できません。このままひどくなるばかりかと心配でたまりません。何か良い漢方薬はありますか？（46歳女性）

A

女性の産後の痔はよく聞きますね、いわゆる痔は内痔核、外痔核、痔瘡、脱肛などの総称です。痔疾はいずれの場合も肛門周辺の静脈のうっ血で瘀血（古血の滞り）が原因です。日本人が3人寄れば1人が痔主とよく比較されますが昔の上での生活、日本式便所での長居、食生活などと関係しているのです。発生原因で特別多いのは慢性的便秘、出産後、長時間の立ち仕事、香辛料などの刺激物のとり過ぎ等と言われています。

また痔の痛みは痔病みの人にしか分らないと言われるほど激しいもので、人に言えず悶々と病に苦しんでいる人は多いようです。痛みが激しい時はぬるま湯を脱脂綿に湿らせ軽く押すようにして拭くといよいです。食べ物ではトウガラシ、シヨウガ、カレーなどの香辛料とアルコールは避けてください。ますます痛みがひどくなります。

さてご相談の女性は特に冷えた時や疲労感が強い時などに脱肛と共に激しい痛み、外痔核があります。出血はほとんど無いので内痔核はありません。お勧めする漢方薬は桂枝茯苓丸（けいしきふくぐわん）がよいでしょう。特に痛みが強い時には炎症、腫れを治す石膏製剤と併せて服用すると速効性があります。例えば桂枝茯苓丸合麻杏甘石湯として用います。

また普段から便秘がちな人には乙字湯がよいでしょう。このお薬は痔に最もよく使われ、脱肛、イボ痔、切れ痔など広範囲に効き、出血や痛みを抑え、また便通も整えてくれます。ご相談者のように疲れると脱肛し痛み痔には補中益気湯がよく、日頃から体力がなく慢性的な疲労感がある人の虚弱体質を改善して脱肛を治す作用があります。外用薬としては裂肛で痛みのある時は紫雲膏を就寝前に患部に塗ります。

最後に痔の痛みを早く治すコツは、強く痛む時は患部をうんと冷やし、痛みが和らいでくるとよく温めることです。



江本 正泰

和歌山桐蔭高校、明治薬科大学卒。
薬剤師、クラシエ漢方療法推進会講師、前漢方療法推進会近畿支部長。

ご相談・お問い合わせは—— 漢方江本薬局
和歌山市毛見295-9 TEL.073-447-1725
<http://emotoyakkyoku.com/>

みなさん、いろいろな悩みがあるかと思いますが。性別や年齢などにより、ご提案する漢方も変わってきますので、ひとりで悩まずに、ぜひご相談ください。

お茶と〇〇と二十四節気

第二十九回

「果物王国和歌山で楽しむお茶」

紀南へと向かうと、鮮やかに色づいた紅葉や黄葉ではなく、柑橘類にウキウキせずにはいられない今日このごろ。

そんな果物王国の和歌山でも、フルーツとお茶というと、真つ先に思い浮かぶのはレモンティーではないだろうか。純喫茶全盛の昭和の頃から令和のオシャレカフェでも紅茶といえば「レモン」ミルクありますが、「レモン」と言われる。まれにストレートもあるが、ほとんどはレモンとミルクの二択である。そういうお店はだいたいどれにでも合うクセのない飲みやすい紅茶を置いているが、最近ではアッサムだのダージリンだのアルクレイだのと銘打っているのに、どれを頼んでも「レモンとミルク（以下略）」と言われる。アッサムにレモン？ おまえいつべん飲んでみろ！と返したくなる。せえんけど。

ミルクティーはわかるよ、英国紅茶の基本ですからね。でもなんでレモンティー？ あれおいしいか？ ほんまに？ と言いたくなる。レモンティーを飲んでる人を見ているが良い。カップにレモンスライス浮かべたあと、エキスを出し尽くせ！ とばかりにフーンでギュウギュウと押しつける。そして一口飲んで変な顔して砂糖を入れる。そりゃそうだ、エグみも苦みも出まくりだろう。あれならインスタントの粉末の方がマシではないか。

では、なぜそんなレモンティーが日本のフルーツティー業界を席巻しているのかという、これはもう当時のイメージ戦略の勝利としか言い様がない。カワイイもね、レモン。爽やかな色も独特なコロンとした形もフォトジェニックな断面も。それまでは番茶に米を入れた玄米茶くらいしかなかった日本には目からウロコであったに違いない。

フルーツティー界におけるレモンティーの地位は決して揺らが無いが、和歌山県人であれば一度で良いから、ミカンのスライスを浮かべてみてほしい。それはきっとあなたを新たなフルーツティーの世界に導いてくれるに違いない。でもギュウギュウはしないでね、念のため。



中原亜貴

茶藝師、ソムリエ。
旧紀州藩領を巡り、各地のお菓子やお茶を食べ飲み歩く二十四節気の旅人。

ほっこり 読む温泉

温泉カリスマ
西口正敏の

42 地球からの贈り物「温泉」

温泉は、地中から湧出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガス（炭化水素を除く）と温泉法で定義されています。一般の方からすると何の事やらよくわからないと思いますが、温泉は「地球からの贈り物」ということは紛れもない事実です。ではその温泉水は、普段口にする飲み水とどのように違うのか。まず飲み水は無色透明でうっすら何らかの味はあるが、主張するほどではありません。温泉の中には飲み水とほぼ変わらない種類も存在します。それらは温泉法では単純泉と分類されます。正確に言えば単純泉の仲間です。温泉の湧出温度が、摂氏25度以上あれば、成分がなくても単純温泉となります。そのような温泉で飲泉が許可されていれば飲み水や料理に生活用水としても活用が見込めます。しかしある一定量の成分を超えると単純泉といえども飲料水としては適さなくなります。温泉成分とは、地下深くで圧力がかかり、水に岩石などのミネラル成分が溶け込んだもの。成分が多くなればなるほど不味くなっていきます。一般的な飲料水は、河川から採取し雑菌や不純物を取り除きミネラル成分も極めて少なく飲みやすいです。

温泉は地下からの湧出が条件です。温泉水1kg中に定められた溶存物質が総量1000mg以上であれば、温泉としての名前が付きます。（例）「ナトリウム・カルシウム ― 炭酸水素塩泉」といったように、陰イオンから陽イオンの順番で表記されます。1000mgに届かないものを単純泉と表します。その仲間には、成分の種類、含有量など幅が広く多種多様なものがあります。温泉浴槽の見た目もかなり違って、無色透明からうっすらと濁っていたりして、実際に入浴した時の肌の感覚も違います。バラエティに富んだ単純泉は日本全国で多数あり、名湯といわれる温泉地がたくさん存在するのです。単純泉や名の付いた温泉でも比較的成分の少ない泉質は、温泉施設での運営管理面では手間がかからない事も多いです。循環式を採用することで、温泉という資源を無駄にせず、お湯の温度を一定に保つことができる快適で大きな浴槽の製造が可能となり、有名な温泉地の発展にも大きく貢献したものと考えます。

西口正敏

合同会社ニッシンマテリアル代表
温浴・温泉の水処理
温泉プロデューサー

温泉施設での炭酸カルシウム対策、薬剤販売、安全管理、省エネ、配管プランニング、メンテナンスその他、施設のプロデュース
温泉愛好会（関西事務局長）、温泉観光実践士協会理事、温泉観光実践士事務局次長（関西）
温泉カリスマ、紀東温泉修験道実行委員長兼事務局次長、日本温泉地域学会会員



下呂温泉郷。
川沿いに立ち並ぶ
大型温泉宿

編集Mの
気まぐれ
コラム

特集で創刊40周年の振り返りをしている中で、ここでも話せる範囲の裏話をします。私がアガサスに入社したのは1997年7月、もともと写真撮影関係の会社に就職したのだけど、4月号から月号で編集者募集の広告を見てしまったのが、転落人生、いや運命が動き出した始まり。入社即退社というお行儀のよくない辞め方をして、勤務地を後にしたのだ。

当時は入社試験の前に自宅試験があった。県出身の有名人を10人選んで、それぞれ何百文字かでまとめたさしというものだった。インターネットが一般に普及していなかったような時代。県立図書館にこもって、南方熊楠や吉佐和子らの書物を必死に漁っていた。

自宅試験をパスして、会社での本試験。初めて社屋を見た印象は、これ、屋形町時代をこ存知の方ならわかると思うけど、なかなかの小屋感。入ってみると想像をはるかに上回る狭くて小ぢんまりな空間だった。

筆記試験は確かテレビ番組の紹介記事を制限時間以内に2本書くとかだったような。その後に面接。面接官は

40周年の機会に入社経緯を振り返る

2人、社長はいなかったと思う。1人は当時の編集長で、俳優の細川俊之に似てるな。この人、心の中でわいわいしていた。

面接はカメラ使えますアピールで押し切った。前職ではバイト時代を含めて団体旅行客の集合写真やスナップを撮影していたので、あながち嘘でもないのだが、物撮り経験はゼロ。面接を終えてから必死に練習をしたのも今はいい思い出。

もう1人、心配事があった。むしろこっちの方が深刻で、今でいうコミュニケーション障だったため、内勤がほとんどであろう編集職を志望したのだが、街の情報を扱うタウン誌というフィールドでやっていけるのか不安だった。

「自分、人付き合い下手なんですけど、勤まりますか？」

など、真つ正直に質問するほど天然ボイでもなかったのだが、この不安が入社後に的中することになる。

（つづく）



私がまだ入社していない頃、昭和のマスコミ感

